

東京都病院ニュース

2020 新年号
No.57

National Hospital Organization Minami Kyoto Hospital News



新年のご挨拶

院長 坪井 知正

新年あけましておめでとうございます。皆様にとりまして、今年が良い年になることを念じております。我が国は、少子高齢化にともない労働人口が減少し、経済規模も縮小の一途をたどっています。医療費総額の増加もあり、財政赤字が膨れ上がっています。そのツケは次世代に引き継がれそうです。また、一人当たりのGDPは、2000年に世界2位でしたが2018年には26位に転落しています。国民の幸福度も世界58位と低迷しています。

さらに、ここ数年は、地震・台風・水害が多く、日本中で多くの方々のご苦労されています。私の出身地は岡山県矢掛ですが、一昨年の大雨で多数の死者を出した倉敷市真備のすぐ隣に位置しております。矢掛も激しい洪水に見舞われ大きく被災しました（僅かばかりの義援金を送りました）。また、当院の医師の一人も岡山県高梁市成羽の出身で実家が床下浸水したとのこと。今日では、災害が本当に身近なものとなってきています。東京都病院も災害時のマニュアルを以前より作成していますが、緊迫感のない、絵空事のようなものです。この一年間、病院の責任者となり、具体的に対策を考えていますが、電気、水道、食料の何をとっても十分とは言えない状態です。対策には資金が必要ですが、行政も財政が逼迫しており、地域の病院に補助が出せない状況です。現在、少しずつ自己資金を蓄えて、できることから準備を進めています。

おそらく、今後も、経済が低迷し、災害が増えることが予想され、閉塞感に押しつぶされそうで、あまり希望が持てないように感じられるかもしれません。しかし、それは違います。希望は常にあります（希望を持つことは各々の自由です）。日本が貧しくなったから強弁するわけではありませんが、「人はパンによってのみ生きるにあらず」だと思います。かつてのブータンは経済的には豊かとはいえませんでした。国民の幸福度は世界1位でした。ご批判を覚悟で申し上げるならば、「足を知る」の精神性がブータンにはあるのだと思います。「満足」を英訳する場合、「satisfaction」と「contentment」の2通りがあります。強欲に満足を求めた結果が「satisfaction」で、自分なりに満ち足りていれば「contentment」ということになります。どちらの「満足」に重きをおくかは各人の裁量権の範囲です。

医療者として最善の医療を患者の方々に届けるのが使命であるとは思いますが、正直なところ「ほどほど」でも良いのではないかと考えています。人間の致死率は、古来より、100%ですので、大切なのは、死ぬまでいかにより良く生きるかであろうと思います。私どもは、患者さんやご家族の希望に沿って医療を進めていきますが、すべての方に世界最高レベルの医療を提供できるわけではありません（設備的にも技術的にも）。ただ一つお約束できるのは、最大限の「親切」と「慈しみ」をもって医療を提供できることです。「親切」と「慈しみ」の医療には、それなりの努力が必要ですが、貧しい日本にあっても実現可能なものです。かつてのタイが「微笑みの国」と言われたように、日本も経済ではなく心根で成り立つ国になっていけるものと信じています。

繰り返しますが、今年が、皆様にとって良い年であることを心より祈念して新年のご挨拶といたします。

「日本呼吸ケアリハビリテーション学会」にも参加しました

院長 坪井 知正

2019年11月7日から、2つの学会に連続して参加し、6日間も名古屋に滞在し、同じ学会場に通いました。総合医学会は、毎日、「会議」+「宴会（正式には意見交換会）」が続きました。私自身も発表したのですが口演賞はいただけませんでした（毎年発表しているのですが副院長時代から受賞できません）。呼吸ケアリハ学会は、人工呼吸器のハンズオンセミナーで南京都病院の認定看護師を含む多くの方々にお手伝いいただきました。その他に、日本脳神経学会との共同企画、日本緩和医療学会との共同企画、ハイフローに関するシンポジウム、の3つのシンポジウムを企画立案し参加しました。その結果、神経難病（特に ALS）の呼吸管理に関する教科書を作る方向で話が進み、非がん呼吸器疾患における緩和ケアに関する呼吸器学会のステートメントを出すことで役割分担ができ、在宅ハイフローに関しては今年4月の保険改定に向けた良いアピールとなりました。アルコールと睡眠不足で大変でしたが非常に有意義な学会ウィークとなりました。

「総合医学会に参加しました」

看護部 教育担当看護師長 山浦 新太郎

11月8日・9日の2日間にわたり、第73回国立病院総合医学会が名古屋国際会議場で開催されました。当院からは口演・ポスターセッションを含めて30題の発表があり、ポスター賞6題、口演賞1題が受賞しました。発表された方々そして、その応援に駆け付けた方、共同研究者の方々、本当にお疲れ様でした。

全国の国立病院機構141施設から、様々な職種が集まり、日頃の成果を発表する場というのは非常に貴重で、自分自身の知見を広げ、モチベーションを上げる良い機会となりました。また、1日目の夜には名古屋港水族館で交流会が行われ、各病院の職員との交流もできました。

祝 ベストポスター賞



交流会でイルカショーがありました



学会会場のメイン階段

ポスターが貼られていてとてもきれいでした

本当はとっても怖い転倒・骨折

副院長 佐藤 敦夫

近年、高齢者の転倒・骨折が問題になっています。南京都病院でも、年に何名かの入院患者さんの転倒・骨折を経験します。「骨折しても骨折を治療すればそれで済むのではないか」と思われる方も多いのですが、実は、高齢者の転倒・骨折は、その後の死亡率を数倍に上げ、健康年齢を大きく短縮してしまう怖い病気であることが分かってきています。

転倒・骨折を生じるのには次のような様々な要素が絡み合っています。

- 1) 加齢や薬の副作用により骨がもろくなり骨折しやすくなっている。
- 2) 加齢に伴う筋力の低下、バランスを取る能力の低下、視力の低下、姿勢の変化、睡眠薬など薬剤による副作用などで転倒しやすくなっている。
- 3) 滑りやすい床、脱げやすい履物の使用、障害物が置かれている通路、手すりのない通路など、環境に転倒をまねく原因がある。

また、転倒・骨折には年齢毎の特徴があることが分かっています。骨がもろくなる病気の代表が骨粗しょう症ですが、閉経期を境に女性の骨粗しょう症が急に増えます。COPDの患者さんや、ステロイドを服用している患者さんも骨粗しょう症を生じる率が高いことが知られています。骨粗しょう症の患者さんで50歳代に増えるのは、まず腕の骨折です。次に70歳代になると椎体骨折が増え、80歳代では大腿頸部骨折が増えるということがわかっています。50歳代ではころんでも手をついて身を守っているのが、70歳代になるとしりもちをついてしまう。80歳代になるといきなり横倒しに倒れてしまうというように、転倒のパターンが年齢につれて変わってくるのがその理由かもしれません。

こうした現状を元に、転倒・骨折をどう予防していったら良いのかを考えてみましょう。まず、骨を強く保つには、早めに骨粗しょう症を発見、診断し、骨がもろくなる前に治療を開始することが必要です。また、骨折を予防するには、骨を強く保つだけでなく、筋力を保ち、バランスを保つためのトレーニングが必要です。いよいよ転倒しやすい状態になってしまったら、転倒しにくい環境の整備が必要です。

当院に入院された患者さんに対しては、医師のみならず、理学療法士、作業療法士、放射線技師、看護師、栄養士、薬剤師など多職種スタッフが転倒・骨折防止のために関わっています。転倒・骨折を防ぐにはどうしたら良いのか、それぞれの職種のエキスパートが次号より連載でお伝えしてまいります。



地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

お一人お一人の状態に応じた医療を心掛けています

とくだ小児科内科

内科

小児科

院長 徳田 幸子 先生



平成 29 年（2017 年）3 月 1 日、父が昭和 49 年に開業した地で「とくだ小児科内科」を開院いたしました。クリニックをリニューアルし、小児科と内科の診療を行っています。お一人お一人の状態に応じた医療を提供することを軸に、病気や治療についてわかりやすくお伝えするよう心がけています。私は、小児科の中でも新生児医療を専門とし、京都府立医科大学附属病院の NICU（新生児集中治療室）で、予定日より早く出生したお子さんや、生まれつき疾患を有するお子さんの診療にかかわってきました。近年、新生児領域も医療の進歩によりたくさんの命が救われ、人工呼吸器、経管栄養などの医療的ケアを要するお子さんも退院して、自宅で生活を送ることができるようになりました。お子さんの背景は様々ですが、ご家族の方がかかえる不安やお気持ちに寄り添い、日々の生活において、医療面から地域の多職種の方々と一緒に支えることにも微力ながら加わりたいと思っております。

お子さんが成長されていく過程で、今後も南京都病院の皆さまにはお世話になる機会があると存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 京都府城陽市久世里ノ西64-22
■ TEL 0774-53-4970
■ FAX 0774-53-4980

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前診 9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	/
予防接種 14:00~16:00	/	/	/	/	/	/	/
午後診 16:30~18:30	●	●	/	●	/	/	/

■ 休診日 水曜日・金曜日・土曜日の午後、日曜日、祝日
予防接種専用外来（要予約）
火曜日 午後14時から16時
※ 予防接種は診察時間内でも可能です（要予約）。



ご本人さま、ご家族さまの想いに寄り添える看護

医療法人徳洲会 京田辺訪問看護ステーション

訪問看護

訪問リハビリ

医療法人徳洲会京田辺訪問看護ステーションは、『ご本人さま、ご家族さまの想いに寄り添える看護』を理念に2019年6月に開所しました。早いもので、開所から半年が経過しようとしており、ご利用される方も徐々に増えてきております。

現在、看護師4名、作業療法士1名、言語聴覚士3名の体制で運営しています。

住み慣れた場所で、その人らしく暮らして頂けるように、地域の開業医の先生や居宅介護支援事業所のケアマネージャーとの連携を常に心がけています。

また、お看取りの方、独居の方、認知症の方はもちろんのことですが、小児や難病患者さまも「24時間サポート」で対応しています。

「家に帰りたい」

「連れて帰ってあげたい」

「最期まで自宅で過ごしたい」

そのような思いをお持ちの方を全力で支えたい。それが私たちの想いです。



■ 京都府京田辺市大住ケ丘二丁目8番地12
■ TEL 0774-66-2213
■ FAX 0774-66-3138

■ 営業時間：8:30~17:00（月~金）
※祝日、年末年始は除く24時間対応体制あり

■ 訪問エリア：京田辺市、城陽市、八幡市、精華町など



薬剤部の紹介

薬剤部長 覚野 律

薬剤部は、外来棟2階北側にあります。現在8名の薬剤師が、患者さんに安心、安全に薬物治療を受けて頂けるよう、①調剤業務。②抗がん剤注射の無菌調製業務。③薬の保管管理、使用期限の確認等を行う薬品管理業務。④薬に関する様々な情報を迅速に収集、管理し院内に発信する医薬品情報管理業務。⑤地域薬剤師会との合同研修会、処方せんに関する問い合わせ対応等による近隣の保険薬局との連携強化。などを行っています。



このほか、病棟業務として、入院時に患者さんが持参された薬を確認し医師に報告すると共に、入院中処方されるお薬の効果や副作用、飲み合わせの確認等、薬物治療の支援を行っています。さらに、医師、看護師ほか様々な医療スタッフと連携し、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、感染制御チーム、呼吸器リハビリテーションカンファレンス、DOTS（結核患者に対する直接服薬確認療法）カンファレンスに参加し、患者さんによりよい薬物治療・ケアが提供できるよう努めています。

特に、慢性呼吸器疾患の患者さんに多数使用される吸入薬については、医師、看護師、作業療法士と連携し、患者さんの年齢、理解力、個々の症状、吸入力、身体的機能などの違いを考慮し薬剤を選択、患者さんに応じた吸入指導を行い薬剤の効果が最大限発揮されるよう努めています。写真は、多職種合同で行った吸入薬の勉強会の様子です。

放射線科の紹介

診療放射線技師長 金森 章人

近年高齢者の交通事故が社会問題となり、事故を起こした75歳以上のドライバーの約半数が認知症の恐れとの報告があります。道路交通法の改正で高齢者の認知症検査が義務付けられており診断書記載ガイドラインには、認知機能検査として画像診断の項目があります。認知症の増加が問題となるなか認知症診療ガイドライン2017の中に、レビー小体型認知症の診断基準として画像検査の必要性が謳われています。また高齢者の転倒による骨折と認知症の関連性も報告されています。南京都病院放射線科ではそういったニーズに対応すべくMRIでは、頭部MRI+MRAに加えて50歳以上の方を対象にVSRAD（統計学的画像解析）による認知症検査と核医学検査（脳血流シンチ・ダットスキャン・MIBG 心筋シンチのいずれか）を同日に行っています。またDEXA法による骨密度検査も行っていますので1日で全てのご要望に応えることが可能です。

また昨年1月に南京都病院は外来棟建て替えにあわせてCT装置も更新しました。以前のCTよりも、撮影時間が4分の1になっています。被ばく量も大幅に低減され、スライス厚0.6mmと『より高速に、より低被ばくに、より高画質』になり、新しい環境と装置で快適に検査を受けて頂けるようになりました。平日は8:30～19:00、土曜日は9:00～12:00に検査を行っています。事前予約をさせて頂いております。詳しくは、南京都病院地域連携室までご連絡ください。



結核研修会開催報告



去る10月17日に、当院主催の結核研修会(看護師・コメディカル向け)を開催致しました。今年度から研修会会場(昨年度会場:文化パーク城陽)を当院会議室にて行うことになり交通の便による影響を心配しておりましたが、総勢51名の皆様にご参加頂くことができました。

【参加者職種】:保健師又は看護師94%、その他の職種6%

【参加者勤務先】:病院勤務65%、行政機関21%、老健施設等12%、その他2%

統計結果(アンケート)から、日頃から患者さんと接する機会の多い看護師の皆様をはじめ、結核対策に努められている行政機関の皆様からも本研修に高い関心をお持ち頂けたと考えております。皆様から頂きました貴重なご意見は今後より良い研修会を企画するために活かして参ります。



病院の基本理念

私たちは、わかりやすく安全で
安心して受けられる
質の高い医療を提供します。

看護師募集中!

- ◎ 常勤看護師
- ◎ 非常勤看護師

人事担当者又は看護部長室へご連絡ください



交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR学研都市線 京田辺から
- JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分

各駅より
送迎車あり

診療科のご案内

- 呼吸器科
- 脳神経内科
- 消化器科
- 内科
- 外科
- 整形外科
- 呼吸器外科
- 循環器科
- 放射線科
- 皮膚科(入院患者のみ対象)
- リハビリテーション科
- 耳鼻いんこう科(休診中)
- 麻酔科(入院患者のみ対象)
- 歯科(入院患者のみ対象)
- 心療内科(入院患者のみ対象)
- 小児科



独立行政法人国立病院機構

南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)

〒610-0113 城陽市中芦原11番地
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
URL <https://minamikyoto.hosp.go.jp/>

地域医療連携室

電話受付時間の延長について
平成30年12月1日から、申し込み受付を19時まで延長させていただきます。
電話受付時間

8:30~19:00 月~金(土・日・祝日休み)

TEL: 0774-52-0191(直通)

0774-52-0065(代表)

FAX: 0774-58-0270

予約状況を確認し、その場で受診日時をお返事いたします。

なお、お時間を要する場合は折り返しお返事させていただきますので、ご了承下さい。

E-mail: 407-renkei@mail.hosp.go.jp